

18. 症状および徴候

文献

常塚宣男. 肺癌術後遷延性咳嗽に対する麦門冬湯の有用性に関する検討. *漢方と免疫・アレルギー* 2008; 22: 43-55. 医中誌 Web ID: 2010145870

常塚宣男. 肺癌術後遷延性咳嗽に対する麦門冬湯の有効性— SF-36v2 による QOL 解析—. *Progress in medicine* 2010; 30: 100-1. MOL, MOL-Lib

1. 目的

肺癌術後遷延性咳嗽に対する麦門冬湯の咳軽減効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

病院 1 施設

4. 参加者

2005 年 11 月から 2007 年 12 月まで、肺癌術後 3 週間以上の遷延性咳嗽が持続し、明らかな呼吸器疾患が認められず、鎮咳剤を使用していない外来患者 32 名

5. 介入

投薬は 4 週間おこなった。

Arm 1: ツムラ麦門冬湯エキス顆粒 9.0 g/日 17 名

Arm 2: コントロール群 メジコン 90 mg/日またはアストミン 60 mg/日 15 名

6. 主なアウトカム評価項目

咳の回数、QOL スコア (SF-36v2 健康調査票)

7. 主な結果

咳の回数は Arm 2 では服薬後 5 日で有意に減少、Arm 1 では 3 日後に有意に減少した ($P<0.05$)。また投薬 6 日以降観察終了 4 週間後まで Arm 1 は Arm 2 に比し咳の頻度は有意に減少を示した ($P<0.05$)。咳嗽改善効果は咳点数についてみると、服用 4 週間前後でみると、Arm 1 では平均 7 から 3.76 に減少し、Arm 2 では平均 7.2 から 4.58 に減少している。Arm 1 の 3 名は咳が消失した。尚、不応例 5 名中 3 名はプロトンポンプ阻害薬にて改善した。QOL に関しては内服前の状態は国民標準に比較して大きく損なわれていた。服薬に伴い、Arm 2 は日常役割機能のみの有意な改善であったが、Arm 1 では全体的健康感、日常役割機能、心の健康が有意に改善し、Arm 1 は Arm 2 に比し心の健康で有意に高値を示した。

8. 結論

肺癌術後遷延性咳嗽に対して、麦門冬湯はメジコン、アストミンに比べ、咳の頻度のみでなく、QOL の mental health 項目でも有意に効果が認められる。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

常塚 (2008) は肺癌術後遷延性咳嗽に対して麦門冬湯が咳の回数を減少させるだけでなく、精神的な負担に対しても軽減させる効果を持つことを示したものである。麦門冬湯で咳が消失した症例とプロトンポンプ阻害薬で咳が改善した症例がそれぞれ 3 名と高率であることも興味深く感じた。常塚 (2010) は、登録期間を 3 ヶ月延長し Arm 2 に 2 名が追加されたものであるが、結果は同一の有効性を得ている。

12. Abstractor and date

藤澤道夫 2010.6.1, 2011.1.14, 2013.12.31